

# 陽気だより

養徳社 検索

No12 2008. 3. 15

## 第二号から

『陽気』は、昭和24年5月の創刊、平成21年に60年を迎えます。その足跡の一端を、昔の記事からふり返っていきます。



### 中山為信

教祖四十年祭活動の提唱された頃は、天理教の大御所として松村吉太郎元老が教内を押しさえていたものだが、その後二十数年を経た現在はスッカリ隠退して、真柱の分家、中山為信が詰番として其の跡に眼鏡を光らせている。



知らない人が聞いたら、詰番とは幕末から明治時代にあった火の番の一種かと早合点するかも知れないが、飛んでもない、天理教徒が世界人類のメッカと尊ぶ天理教本部の管理者の職である。彼の父君、山澤為造元老は、現真柱（二代）の幼少時代、管長職務撰行者として、本当の宗教家らしい人格者であり、母君は有名な教祖と共に拘留され、下駄に自分の帯を巻いて教祖の枕に差上げたという

方である。

嘗て総務長として宗政の衝に立っていた時、集会に於ける質問の矢を一身に引受けて、快刀乱麻の力強さには、当時の諸井復興部長も、「親舟に乗った気易さだ」と感慨を洩らしたほどであるが、今でも天理教団の大支配人諸井（慶五

その事を聞かされた某は、流石にいささかしよげたが、その後管長邸で開かれた何かの委員会でも、お互いに顔が合った時、彼は某の顔を見るなり、自分のネクタイを両手で握って、「某君コレコレ」と笑顔でその時の模様を真似てみせ、相手をスッカリ恐縮させてしまったところなどは、大政治家の風格充分である。

彼にはまた、どんなに良いと思う建言にも、一度は突放す癖がある。一度蹴ってみて、それでそのまま引込んでしまふ程度のものなら、たかが知れている。突放されても尚かつ食らいついてくるくらい熱意の籠っていない献策には、見向かない手堅さである。

我が国の宗教界に、素裸にして押し出しても、人物としてどこにもひけをとらぬ詰番中山為信は、よき意味に於ける道の大御所として、無官の地位に立って、総長の上に詰番の上に、水戸の光圀的存在たらんことを切に望んでやまない。（中澤隼人）

中山為信（なかやま・ためのお）  
明治25年（1892）〜昭和36年（1961）70歳。本部長、内統領をはじめ要職を歴任。



本部長 山澤為次

新発足の天理大学に入学させて頂きたいと存じます。そして在学中にイデオロギーを確立し、卒業後は青年布教師として、信念のままに思い切り活躍したいと思えます。

新潟教区長 田村弥三郎

私は颯爽として天理大学の修養科に入学し親神の御教を身につけて映画会社を創設し名監督となつて、柏木庫治氏、常岡一郎氏、エノケン、ロッパを主役とした本教独自の教理をもった作品「甘露台建設を目指す陽気な集い」をヒット公開致します。

香川教区長 片山俊次

私の二十歳前後は勉強せねばならぬ学生の身ではあつたが、……何ものにも制約されない自由に自由な身体であつた。然し何か社会の為に尽くしたいという一念に燃えていたので、いろいろな事を計画してやったものだ。……今一度昔にかえることが出来るならば、何ものの制約も受けない自由な立場で思う存分働いて見たいと思う。今の生活とはまた変つた大きな意義のあつたことがなつかしい。

## 馬の顔をした魚

後醍醐天皇が奈良吉野に南朝を、足利尊氏が京都に北朝を建てて対立した「南北朝時代」に突入する前。都を落ちのびた後醍醐天皇は、京都の笠置から吉野へ向かっていた馬に乗り、お忍びで山坂を越え、ようやく天理にあった内山永久寺にたどりついた。

「おい、しっかりしてくれ。一生懸命助けよう」とされた。元氣を出してくれ。私のためここにまでがんばってくれたのに」と、たてがみをなで励ました。馬は虫の息で天皇に申し上げた。「天皇さま、私は吉野までお供しようと思いました。しかし、私にはもうその力がないので残念で、死んでも死にきれません。私はこの池に入つて魚になり、天皇さまのお側については参れませんが、道中のご無事を祈り続けております。先立つ罪をお許しください」と、最期の言葉を残して息絶えてしまった。



内山永久寺跡の池、今は馬魚（ワタカ）は棲んでいないという。右は、池の東にある石碑。碑文は「後醍醐帝 行在所 宣御所跡」 萱とは、仮の意味か。



馬の亡霊が、池の魚にのりうつつたのだろうか。魚の顔は馬の顔になってしまった。そして、草を食べる魚と珍しがられるようになった。その魚が天皇の無事を祈り続け、お守りしたのである。寂しく出発された天皇は、つつがなく旅を続けられ、無事に吉野に着かれたということである。この馬の顔をした魚・馬魚の実名はワタカである。葦の生えた湿地を生息場所とする。

琵琶湖と淀川に棲む日本特産の魚だそうで、誰かが淀川付近のワタカをこの本堂池に放つたのが繁殖したのだろうといわれている。現在、奈良県下では、奈良東大寺の鏡池や天理の石上神宮の鏡池にも棲んでいる。いずれも本堂池から移されたものだろうである。馬魚が草を食べること。そして後醍醐天皇の乗つておられた馬が、この池のほとりで死んだことから、馬魚伝説が生まれたのだろう、という。『てんりの昔ばなし』を要約加筆



馬魚伝説主役のワタカ

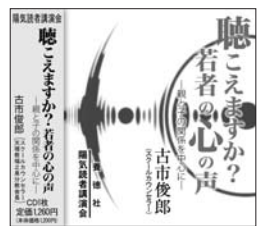


池の近くに咲いていた黄梅

内山永久寺跡は、石上神宮から山辺の道を南へ六、七百メートルのところにある。永久二年（一一三四年）に鳥羽天皇の勅願により建立された寺で、かつて五十カ所以上の子院があり、石高は法隆寺に匹敵した。それが今は、池を残すのみである。池の側には、「うち山やとぎましらずの花ざかり」の芭蕉句碑が建っている。

（外様よりその土地の人）

## 講演会CDの紹介



### 聴こえますか？

#### 若者の心の声

—親と子の関係を中心に—  
古市俊郎（スクールカウンセセラ  
ー・天理教福祉泉分教会長）

1,260円（税込）

お道も「熱心さだけでは伝わらない」と思い、41歳からカウンセリングの勉強を始めた講師が語る、おたすけに生かせる親子のコミュニケーションの話です。四月号まで『陽気』に連載しました。幼児から小学生、中学生から青年期へ——成長段階ごとに子どもへの心構えがわかれば、子育ては楽になる。親が心すべきことがやさしく説かれていきます。「話す」「聞く」意味を、ユニークな表現で再認識させてくれる内容です。

※ご購入は、おちばの各書店でお求めくださるか、直接当社へご注文ください。

☎0743・62・4503

## 養徳社 よもやま話

★一年間天理大学の交換留学生として中国杭州に行っていた次男が帰ってきた。「中国みやげだ」と言って、インスタントラーメンやお菓子類を荷物から出したが、折からの中国ギョーザ事件の最中。一月経った今も誰も手をつけずに置かれたまま。

★○月○日 社内ではカンパでコーヒー豆を購入し、コーヒーをたてている。「この出がらしがもつたいなあ」非喫煙者の編集者が言ってきた。そこで「MOTTA IN A I」第一弾として出がらしを乾かし、喫煙場所の灰皿に敷詰め、におい消しとして実験中。効果の程は？

### 広告を載せませんか

ようほくの企業や会社の広告を『陽気』誌へ載せてみませんか？ 掲載料金は、広告の大きさによって異なります。料金は、記事中で一回二万円から。

詳しくは養徳社広告係まで  
☎0743・62・4503

この「陽気だより」を各支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用くださいますよう、お願い申し上げます。

養徳社